

## 第1章 圏域の概要

### [河川の概要]

渡良瀬川圏域は、桐生市（旧桐生市、旧黒保根村）、みどり市（旧東村、旧大間々町の一部）の2市で構成されている。

渡良瀬川は、栃木県日光市（足尾町）の皇海<sup>すかい</sup>山に源を発して、渡良瀬遊水地を経て利根川に流入する流路延長 107.6km、流域面積 2,621km<sup>2</sup>の群馬県及び栃木県にまたがる広大な流域を持つ利根川水系最大の支川である。このうち県管理区間は、みどり市大間々町高津戸から上流であり、草木湖を含む一部区間を除いて栃木県境までとなっている。

桐生川は、渡良瀬川流域の最大支川であり、いくつもの溪流を合わせながら南に流れ、桐生川ダムからは南西へと流れを変え、桐生市街地の東縁を通り、南東に向きを変え、圏域から外れ渡良瀬川に合流する。

山田川は鳴神山から蛇行しながら南下して渡良瀬川に合流している。

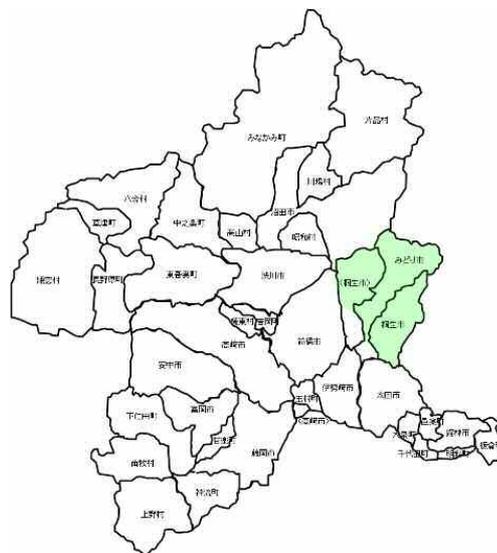


図-1.1 渡良瀬川圏域位置図

### [地形・地質]

渡良瀬川圏域の東部には急峻な山々が連なり、南西部では広々とした火山灰大地が緩やかに展開され、その南部はなだらかな起伏を持つ平坦地となっている。また、一部においては渡良瀬川によって形成された扇状地を形成している。

圏域の北東部にある草木ダム周辺には花崗岩体が貫入し、三境山頂部には例外的に新第三紀の溶結凝灰岩が堆積している。渡良瀬地域南部及び前橋・東毛地域は、泥流堆積からなる前橋台地、砂礫の上部にローム層が発達した大間々扇状地、利根川や渡良瀬川による河川堆積からなっている。

### [気候]

渡良瀬川圏域は、本州の中心部に位置するため、夏は蒸し暑く、冬は寒くて乾燥する内陸性の太平洋気候である。年間の平均気温はおおむね 14℃～15℃であり温暖な気候となっている。年間平均降水量は 1300mm 程度であり、群馬県は内陸に位置しているため全国平均より少ない。